

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
YIC情報ビジネス専門学校		平成1年8月24日		中川 達也		〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083-976-8354			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人YIC学院		平成13年10月11日		井本 浩二		〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083-976-8111			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士		
工業	工業専門課程	情報工学科 (旧名称 高度情報技術学科)				旧名称 高度情報技術学科 として 令和元年度文部科学省 認定 (令和2年2月29日公示)	-		
学科の目的	コンピュータの技術を学び、Webプログラム、ビジネスシステムなどの開発に従事できる、エンジニアマインドを持ったIT技術者を育成し、経済産業省主催の情報処理技術者試験や各主ベンダー資格の取得を目指します。								
認定年月日									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
3年	昼間	2700	1140	1800	120	0	0		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数				
60人	40人	0人	5人	1人	6人				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 【学生便覧 学習の手引き 5. 成績評価】 ①成績評価は、試験のほか確認テスト、模擬テスト、レポート、出席状況、授業態度により総合的に評価する。 ②評価結果は、秀、優、良、可、不可の5段階とし、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とする。 判定評価点成績GP成績評価内容 合格100～90点秀4到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている 89～80点優3到達目標を十分に達成している 79～70点良2到達目標を達成している 69～60点可1到達目標を最低限達成している 不合格59点以下不0到達目標を達成していない 未履修—各科目について欠課が授業時数の1/3を超えるもの ※GPAの対象としない ③評価結果が不可の者に対し再試験を実施することがある。再試験実施後、試験の結果の代わりに再試験の結果を用いて評価をやりなおす。ただし、秀、優、良相当の成績であっても評価結果は可とする。 ④年度末に通年の評価結果の一覧を成績表として、保護者(保証人)に送付する。 ⑤卒業年次生は、就職活動に際し成績証明書の必要な場合がある。そのため、申請のあった者については各期末終了日前に、受講中の教科科目について中間評価を行う。その際、確認テストや模擬テスト、レポート、出席状況等をもとに評価を行う。				
長期休み	■学年始め:4月1日～4月7日 ■夏季:7月27日～8月30日 ■冬季:12月22日～翌1月5日 ■学年末:2月22日～3月31日			卒業・進級条件	【学生便覧 学習の手引き 7. 進級・卒業】 ①進級要件 年度末において次の要件のすべてを満たしていること。 a. 各学科の定める当該年次の教科科目のうち、必修科目、選択必修科目の成績評価がすべて可以上であり、進級必要単位数を修得している。 b. 当該年次の学費、教材費等が納められていること。 ②卒業要件 卒業年次の年度末において次の要件のすべてを満たしていること。 a. 各学科の定める教科科目のうち、必修科目、選択必修科目の成績評価がすべて可以上であり、卒業必要単位数を修得している。 b. 全ての学費、教材費等が納められていること。				
	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ■長期欠席者への指導等の対応 (出席状況不良者への対応)				■課外活動の種類 学生会(学生自治組織・学園祭の実行委員会等を行う) サイバーパトロールボランティア(有害サイトがないかパトロールを行い、山口県警に協力する)				

学修支援等	<ul style="list-style-type: none"><li>・担任は原則として1か月ごとに担当学年の出席状況を確認する。</li><li>・担任は科目の出席率が8割を満たさない者は、学生と面談を行い、その結果を学科責任者及び職員会議で報告する。必要に応じて学生指導及び保護者連絡を行う。</li><li>（長期欠席者への対応）</li><li>・上記の対応に加え、欠席が長期に渡る者については、電話連絡を密にし、必要に応じて学生及び保護者を召喚し、面談を行う。</li><li>・学生及び保護者への対応を行った時は、その内容を学生個人記録に記録する。</li></ul>	課外活動  無  ■サークル活動:
-------	---	-------------------------------

就職等の状況※2	<b>■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生)</b> 株式会社ピージーシステム、コベルソフトサービス株式会社、GMOインターネット株式会社	<b>■国家資格・検定/その他・民間検定等</b> (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)																					
	<b>■就職指導内容</b> 県内IT企業、県外IT企業によるオンラインでの業界講話や企業説明会を実施し、業界の理解を深める。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>基本情報処理技術者試験</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>	資格・検定名	種	受験者数	合格者数	応用情報技術者試験	③	3人	1人	基本情報処理技術者試験	③	4人	3人	情報セキュリティマネジメント試験	③	1人	1人	ITパスポート試験	③	3人	3人
	資格・検定名		種	受験者数	合格者数																		
	応用情報技術者試験		③	3人	1人																		
基本情報処理技術者試験	③	4人	3人																				
情報セキュリティマネジメント試験	③	1人	1人																				
ITパスポート試験	③	3人	3人																				
<b>■卒業生数</b> 5 人 <b>■就職希望者数</b> 5 人 <b>■就職者数</b> 4 人 <b>■就職率</b> 80 % <b>■卒業者に占める就職者の割合</b> 80 %	<b>主な学修成果(資格・検定等)※3</b>																						
<b>■その他</b> 0	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																						
(令和2年度卒業者に関する明治33年1月0日時点の情報)	<b>■自由記述欄</b> (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 第14回若年者ものづくり競技大会(ITネットワークシステム管理)敢闘賞受賞																						
<b>中途退学の現状</b>	<b>■中途退学者</b> 0 名 <b>■中退率</b> 0 % 令和2年4月1日時点において、在学者17名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者17名(令和3年3月31日卒業者を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 0																						
<b>経済的支援制度</b>	<b>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:</b> 有 指定校推薦奨学生制度(授業料5万円減免)、自己推薦奨学生制度(授業料3万円減免)、社会人特待生制度(授業料5万円減免)、進級時成績優秀者奨学生制度(1~10万円給付)、YICファミリーサポート(授業料5万円減免)、YIC卒業生授業料サポート(授業料10万円減免)、YIC入学選考料サポート(入学選考料減免)、遠距離サポート(毎月3千円支給)、ひとりぐらしサポート(毎月0.5~1万円支給)																						
	<b>■専門実践教育訓練給付:</b> 非給付対象 前年度の給付実績者数 0名																						

第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科の ホームページ URL	<p><a href="https://www.yic.ac.jp/ib/course/it/">https://www.yic.ac.jp/ib/course/it/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・学科の専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会(教育課程編成委員会)を置く。
- ・審議事項は次の事項とする:カリキュラムの企画・運営・評価、各授業科目の内容・方法の充実及び改善、教科書・教材の選定、教員研修。
- ・委員会には学校関係者のほか、専攻分野に関する企業等の役員または有識者を1人以上加えることとし、企業等との連携を密にする。(以上 学校法人YIC学院 教育課程編成委員会規則 より抜粋)

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・「学校法人YIC学院は、設置する専門学校各校の各学科に、専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。」(学校法人 YIC学院 教育課程編成委員会規程第2条より)
- ・カリキュラムは、教育課程編成委員会の意見等を参考に、学内教育課程編成委員会において編成する。教職員会議での検討を経た後、理事会の承認を受け最終決定。
- ・授業内容・方法の改善・工夫等については、教育課程編成委員会の意見を参考に、可及的速やかに対応する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年6月17日現在

名前	所属	任期	種別
茄子川 導彦	株式会社Solarus 代表取締役	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	③
吉田 典子	株式会社ビーアライブ 取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	③
武波 伸夫	一般社団法人山口県情報産業協会 会長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	①
中川 達也	YIC情報ビジネス専門学校 校長		
河津 道正	YIC情報ビジネス専門学校 副校長		
杉林 伸繁	YIC情報ビジネス専門学校 教務部長		
飯田 直樹	YIC情報ビジネス専門学校 事務長		
福本 一雅	YIC情報ビジネス専門学校 教務課長補佐		
森野 茂弘	YIC情報ビジネス専門学校 情報工学科 学科長		
柳川 小次郎	YIC情報ビジネス専門学校 情報システム科 学科		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回(6月～8月、2月～3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年7月13日(火) 11:00～12:00

第2回 令和3年9月15日(水) 15:00～16:00

第3回 令和4年2月 実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・受験する検定資格の再検討

・IoT授業においてデータ収集だけでなく、データ活用まで行う

など

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・山口県内の、学生の住居近くの施設を選定している。
- ・学生の興味分野や就職希望分野(進路)も踏まえ、実習指導者との連携がとれる施設を選定している。
- ・指導者の監督の下、見学・実習を行い職業理解に努める。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・実習、演習においては企業間と「講師派遣契約書」、科目について「覚書」を交わしている。
- ・実習・演習の方法・成績評価の方法について実習指導者・教員・学生間で共有している。
- ・実習期間中は教員が電話あるいは訪問して状況確認を行い、問題があれば対応について協議する。実習指導者が記入する成績

評価表と、実習終了後に行う報告会での報告内容を踏まえ、教員が最終成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
PBL/企業実習	IT系企業もしくは一般企業での企業実習もしくはプロジェクトベースラーニングを行う。	株式会社エイム、株式会社フォー・クオリア、ツールジオ株式会社西日本山口センター

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

(教員の研修等の基本方針)

- ・YICグループ教職員研修規程に基づき計画的に研修を実施している。
- ・常に変化する業界動向に合わせて、技術・知識の確認をするために、企業企画・イベントの参加を推奨している。
- ・資格取得のための研修を推奨している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「初めてのプログラミング入門～JavaScript(p5.js)でビジュアルプログラミング体験～」(連携企業等: デジタルハリウッド株式会社)

期間: 令和2年8月25日(水) 18:00～20:00 対象: 教員

内容: JavaScript(p5.js)によるビジュアルプログラミング演習。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「プログラミング教育の実践! ドローンプログラミング(Python編)言語学習キットのご紹介」(連携企業等: 株式会社大塚商会)

期間: 令和3年7月14日(水) 16:00～16:45 対象: 教員

内容: 分かりやすいプログラミング授業の指導方法、学習目標の設定の仕方、課題発見方法について。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「YIC教員研修(冬季)」(連携企業等: 学校法人YIC学院)

期間: 令和3年12月予定 対象: 教員

内容: オンライン授業、情報セキュリティ

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「YIC教員研修(冬季)」(連携企業等: 学校法人YIC学院)

期間: 令和3年12月予定 対象: 教員

内容: 教授法、AL授業、ID授業

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 ・学校関係者評価委員会において、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめ報告書を作成していただく。  
 ・学校関係者評価委員会からの報告書に基づいて本校の自己点検評価を見直し、次年度の改善計画における重点項目を決定する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	7 管理運営
(3) 教育活動	2 教育の内容
(4) 学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	3 教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	5 学生支援
(8) 財務	8 財務
(9) 法令等の遵守	7 管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・本校で実施した自己点検評価・改善計画を学校関係者評価委員会に提出し、意見・協議結果をもとに学校機能評価報告をまとめ、年報・ホームページで公開する。改善計画にもとづき学校運営や教育の改善を計画的に行う。  
 またシラバスがテキストの目次に基づくものが多く、具体性がない。  
 今後、シラバス・コマシラバスの整備をインストラクショナル・デザインを取り入れて改善していくことに決定した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
山崎 真里	情報工学科 在校生 保護者	R3(2021)年4月1日～ R5(2023)年3月31日(2年)	保護者代表
水津 敬太	パティシエ学科 卒業生	R3(2021)年4月1日～ R5(2023)年3月31日(2年)	卒業生代表
富田 祥司	株式会社ピージーシステム 人事総務部 部長	R2(2020)年4月1日～ R4(2022)年3月31日(2年)	企業関係者
浅川 剛史	山口商工会議所 広域ビジネスサポートセンター長	R3(2021)年4月1日～ R5(2023)年3月31日(2年)	職能団体関係者
臼淵 厚史	株式会社 山口グランドホテル 代表取締役社長	R3(2021)年4月1日～ R5(2023)年3月31日(2年)	企業関係者
兼重 顕治	医療法人 協愛会 阿知須共立病院 事務部経営企画室人材開発グループリーダー	R3(2021)年4月1日～ R5(2023)年3月31日(2年)	企業関係者
中野 園子	山口県獣医師会の会員獣医師 なかの動物病院 副院長	R3(2021)年4月1日～ R5(2023)年3月31日(2年)	企業関係者
田邊 元久	学校法人三田尻学園 誠英高等学校	R3(2021)年4月1日～ R5(2023)年3月31日(2年)	高等学校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 (ホームページ)

URL: <https://www.yic.ac.jp/ib/disclosure/>

公表時期: 令和3年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校の評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

<https://www.yic.ac.jp/ib/disclosure/>



授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	〇		テクノロジーⅠ	基本情報技術者試験（ITSSレベル2）の午前問題のうちテクノロジー分野の知識にかかわる講義。	1前	90	6	〇			〇		〇		
2	〇		テクノロジーⅡ	応用情報技術者試験（ITSSレベル3）の午前問題のうちテクノロジー分野の知識にかかわる講義。	1後	90	6	〇			〇		〇		
3	〇		マネジメントⅠ	基本情報技術者試験（ITSSレベル2）の午前問題のうちマネジメント分野の知識にかかわる講義。	1前	60	4	〇			〇		〇		
4	〇		マネジメントⅡ	応用情報技術者試験（ITSSレベル3）の午前問題のうちマネジメント分野の知識にかかわる講義。	1後	60	4	〇			〇		〇		
5	〇		ストラテジーⅠ	基本情報技術者試験（ITSSレベル2）の午前問題のうちストラテジー分野の知識にかかわる講義。	1前	60	4	〇			〇		〇		
6	〇		ストラテジーⅡ	応用情報技術者試験（ITSSレベル3）の午前問題のうちストラテジー分野の知識にかかわる講義。	1後	60	4	〇			〇		〇		
7	〇		アルゴリズムⅠ	基本情報技術者試験（ITSSレベル2）の午前・午後問題のうちアルゴリズムにかかわる演習	1前	60	4		〇		〇		〇		
8	〇		アルゴリズムⅡ	応用情報技術者試験（ITSSレベル3）の午前・午後問題のうちアルゴリズムにかかわる演習	1後	60	4		〇		〇		〇		
9	〇		プログラミング演習Ⅰ	Python言語の入門および基本情報技術者試験（ITSSレベル2）の午後問題のうち、プログラム言語にかかわる演習	1前	90	6		〇		〇		〇		
10	〇		プログラミング演習Ⅱ	Python言語の応用および基本情報技術者試験（ITSSレベル2）の午後問題のうち、プログラム言語にかかわる演習	1後	90	6		〇		〇		〇		
11	〇		マイコン コンピュータ演習Ⅰ	Windowsの基本操作、アプリケーションソフトのインストール、および基本的管理作業の習得	1前	60	4		〇		〇		〇		
12	〇		マイコン コンピュータ演習Ⅱ	RaspberryPI (Rspbian) の基本操作、アプリケーションソフトのインストール、および基本的管理作業の習得	1後	60	4		〇		〇		〇		

13	○		パーソナルスキルⅠ	IT関連の仕事と職業について学び3年間の学習目標を立てる。	1前	30	2		○	○	○						
14	○		パーソナルスキルⅡ	自分の強みと弱み、どのような価値観を持っているかなど、自己理解をするためのグループワークを行う。	1後	30	2		○	○	○	○					
15		○	検定対策Ⅰ	基本情報技術者試験の合格を目的とする問題演習を行う。	1前	90	6		○	○	○	○					
16		○	検定対策Ⅱ	基本情報技術者試験および応用情報技術者試験の合格を目的とする検定対策。受験科目は前回国試の結果による。	1後	90	6		○	○	○	○					
17	○		ネットワーク	Cisco製ルーター、スイッチを用いたネットワークの構築のための知識習得を行う。あわせてCCNA試験受験に必要な知識を習得する。	2前後	##	8	○		○	○						
18	○		プログラミング演習Ⅲ	Visual BASICもしくはC#言語のいずれかの習得を行う。プログラミング演習Ⅰ、Ⅱの経験を基に自ら言語仕様を調べ習得に努める	2前	90	6		○	○	○						
19	○		アプリ開発演習Ⅰ	Visual BASICもしくはC#言語のいずれかの言語によりビジネスシステムの開発を行う。	2前	90	6		○	○	○						
20	○		サーバ構築	Debian GNU Linuxのインストールから、各種サーバーの構築までの演習を行う。構築するサーバーはDNS、メール、Web、Proxy、他とする。	2前	##	8	○		○	○						
21	○		情報セキュリティ	ITエンジニアとして必要となる開発者としての情報セキュリティ確保に関する知識を教授する	2後	60	4	○		○	○						
22	○		データベース概論	関係型データベースにかかわる基礎理論と実践的な知識を教授する。	2前	60	4	○		○	○						
23	○		データベース演習	データベースサーバーの構築、運用を行うとともに、実際の業務に合わせたデータベース構築の演習を行う。	2後	60	4	○		○	○						
24	○		アプリ開発演習Ⅱ	Visual BASICもしくはC#言語のいずれかの言語により、Webアプリケーションの開発を行う。	2後	##	8	○		○	○	○					
25	○		PBL/企業実習	IT系企業もしくは一般企業での企業実習もしくはプロジェクトベースドラーニングを行う。	2後	##	4		○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	○		パーソナルスキルⅢ	社会人としてスタートするに必要な一般的な個人的なスキルを身に付ける	2前	30	2		○	○	○						
27	○		パーソナルスキルⅣ	社会人としてスタートするに必要な一般的な個人的なスキルを身に付ける	2後	30	2		○	○	○						

28		○	検定対策Ⅲ	情報処理技術者試験合格のための問題演習を行う。受験する試験は各自で決定する。	2 前	90	6		○	○	○	○		
29		○	検定対策Ⅳ	情報処理技術者試験合格のための問題演習を行う。受験する試験は各自で決定する。	2 後	90	6		○	○	○	○		
30	○		情報科学	情報工学の基礎となる情報数学、統計学を学ぶとともに、システム開発での応用についても学ぶ	3 前	60	4	○		○	○			
31	○		プログラミング演習Ⅲ	今後の進路を想定し、各自で習得すべきプログラム言語を選択し、その言語の習得を行う。	3 前	90	6		○	○	○			
32	○		先端要素技術Ⅰ	AI（人工知能）やIoT等のその時々先端技術について実際に利用するための演習を行う。	3 前	90	6		○	○	○	○		
33	○		先端要素技術Ⅱ	先端要素技術Ⅰをうけ、各自で習得すべき先端技術を選び、それを応用したシステム開発を行う。	3 前	90	6		○	○	○	○		
34	○		クラウドオペレーション	クラウド上のサービスを用いて、システム開発、サービス開発を行うための考え方を学び、実際にクラウド上でのオペレーションについての演習を行う。	3 前	90	6		○	○	○	○		
35	○		プロジェクトマネジメント	PMBOKを基にプロジェクトマネジメントの考え方を理解し、プロジェクトマネジメントで使用する標準的な用語を用いて、プロジェクト内でのコミュニケーションが取れるようにする	3 後	60	4	○		○	○	○		
36	○		アプリ開発Ⅲ	プログラミング演習Ⅲで選択した言語を中心に、実用的なシステムの開発を行う。開発の全工程をPMBOKにそってプロジェクトマネジメントを行う。	3 後	##	24	○		○	○	○		
37	○		パーソナルスキルⅤ	社会人として他の模範となる個人的なスキルを身に付ける	3 前	30	2		○	○	○	○		
38	○		パーソナルスキルⅥ	社会人として他の模範となる個人的なスキルを身に付ける	3 後	30	2		○	○	○	○		
合計					38科目					3060単位時間				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必修科目2700時間		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。